元気とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐　勉　　2023年12月18日　第1147号「週刊五十嵐レポート」

効率経営とは

12月15日付日経新聞、「記者の目　しまむら復活」という記事。カジュアル衣料大手、しまむらの業績が好調。2024年2月期の連結純利益は3年連続で過去最高になる見通し。

強みは効率経営。機会損失の防止よりも品揃えの変化を優先する「売り切れ御免」の戦略を展開。リピーターの獲得につながるほか、必要以上の在庫を持たずに済む。在庫回転日数は23年2月期に31日と20年2月期から4日短縮。ファーストリテイリング(61日)、良品計画(82日)、アダストリア(33日)、西松屋チェーン(64日)より短い。しまむらの効率経営はアパレル業界でも光る。

しまむらをはじめ上記5社を比較してみる。(在庫、月商の単位:百万円)

2023年	在庫	月商	在庫日数	粗利率	1人り粗利	1人当純利益
しまむら	54,266	51,343	31日	34%	13,962千円	2,527千円
ファースト	449,254	230,546	58日	52%	12,575千円	2,759千円
良品計画	133,078	48,451	82日	47%	13,058千円	1,073千円
アダストリ	24,679	20,212	36日	55%	10,684千円	626千円
西松屋チ	30,950	14,127	65日	35%	12,703千円	1,643千円

5社の数字を比較してみると、売上高粗利益率と一人当たりの生産性にあまり相関関係はないようだ。しまむらは粗利益率34%なのに、1人当たり粗利益、純利益は高い。アドストリアは粗利益率55%と高いが、一人当たりの粗利益がしまむらより3百万円ほど少ない、そのため一人当たりの純利益が2百万円近く低くなっている。

効率経営を調べてみると、「自社が担う分野での利益の促進を図ることを指す。効率化とは、同じ一定の時間内で、より多くの生産や成果を生み出せるように、工夫することとも言える。効率化を行えば、生産性が高まり利益も大きくなるため、企業にとっては重要な取り組みの一つ」。

小さな会社にとって、効率経営は、一人当たりの粗利益額を高めること、そうすると自ずと1人当たりの純利益が多くなる。(そのためには、何をすべきか考える)

ちょっと気になる出来事

12月15日、16日付日経新聞、「酪農業　生き残りをかけて」という記事。

飼料価格の高騰で苦境にある酪農業で、牧場経営者や市場関係者らが生き残りをかけて動き出したと。牛の品種改良で生産効率を上げる。規模の拡大など。北海道のある牧場では、修学旅行生を牧場に招き、酪農業、牛乳など乳製品をもっと知ってもらいたいと長期的な消費の底上げ。

流通ルートは、酪農家が搾った生乳を乳業メーカーが買い取り、牛乳となって、スーパー等の店頭に並ぶ。エンドユーザーまでに乳業メーカー、小売業等、2か所を経由する。乳業メーカーの23年3月期の決算は減益になったが、十分利益を確保できている。価格を独自に設定できるから。

生乳から牛乳、チーズ等の乳製品にすると付加価値が高まる。

「難しいものにはそれ相当の利益が隠れている」

弱者の戦略では、エンドユーザーにより近づく。接近戦。

酪農家が小規模の乳業メーカーになり、直接エンドユーザー向けに販売する。それができるかどうか。いつまでも乳業メーカーに生乳を収めていれば、なかなか生き残れないと思う。

一口メモ
知識

損して得をとる

損は、下（しも）を損して上（かみ）に益（ま）し、その道上行（じょうこう）す。（山沢損　さんたくそん）

山沢損（さんたくそん）の「損」は損する、減らすこと。

何のために損をするのかといえば、「その道に上行する」自らのステップアップのためである。この損は自分の先行きに投資することと考えればよい。

資格を取得するために学費を払って勉強する。
あるいは、出資が多くても良い仕事をして取引先に利益をもたらし、
いずれ相応の利益を得るように努力する。

いずれも上昇のための「損」である。

「易経一日一言」(致知出版/竹村亜希子)より

●「戦略社長塾東京」小岩校　毎週日曜日・水曜日　午前10時～12時
●「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校　開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス　〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5
TEL03-3659-7703　Fax03-3659-7077　info@igarashireport.com